

「声の市報」を届けます — 松浦音訳の会 —



目の不自由な人たちのために毎月市報を音訳し、「声の市報」を届けている「松浦音訳の会」があります。この「松浦音訳の会」に活動や現状における課題などを聞きました。

○設立の経緯

平成6年末に福祉関係の会議に出席し、市内に市報の音訳を希望する人がいることを知り、同年10月から準備を進め、市報まつうら12月号から1人で音訳活動を始めました。

活動を進める中でグループを作ろうと声をかけ、翌年2月には4人になり、現在では、30代から70代のメンバー13人になりました。

○主な活動

同会では毎月、社会福祉センター2階の会議室で市報まつうらの音訳を行っています。

市報が発行されるとその月に活動できるメンバーで役割分担を行い、以下の流れで音訳を行います。

- ①ふりがな付けや下読みを行い、ストップウォッチを使って全体的な構成を行います。
- ②構成が終わると、約1日(5〜7時間)かけて録音作業を行います。テープは通常90分2本(市報の

▼録音作業の様子



ページ数によって2本目は60分)になります。

③録音したテープを持ち帰って聞きなおし、聞きづらい箇所や読み間違い、雑音が入った箇所を部分的に録音し直します。

「声の市報」が出来上がると、必要な数をコピーして、利用者の元に届けます。また、利用者が聞き終わった音訳テープは回収され、翌月号の録音に使われています。

○「声の市報」を多くの人に

「声の市報」をより多くの人に聞いてもらうために、市立図書館の点字録音図書コーナーにも置いてあります。

同コーナーは、目の不自由な人が本を読むことができるスペースが設けられており、録音図書（カセットテープ）約200本、点字図書約20冊や本を拡大してみることでできる機械などが置かれています。

市報まつうらの音訳テープは、その場に備え付けられたカセットデッキで聞いたり、借りたりすることができます。

また、この「声の市報」は福島図書館、鷹島公民館図書室にも置いてあります。



▲市立図書館内の点字録音図書コーナー

○現状と技術の向上

なかなか活動が知られていないこともあり、しばらく新しい会員が入っていません。活動を続けていくためにもボランティアと一緒に活動してくれる人を探しています。

また、現在使用しているカセットデッキが古く修理するにも部品が無いため故障したときにどうするか悩んでいます。

時代の流れとともに音訳の装置も進歩し、デジタル化されてきています。最近では、CDへの録音のほか、パソコンを使った録音や小さい記憶媒体（コンパクトフラッシュ^{デジタル}など）に録音することができるようになりました。

デジタル化された装置を使うと部分的に言葉を修正したりする編集作業が格段に容易になります。



▲デジタル録音機器「DR-1」写真真ん中にある小さい媒体にデジタル録音することが出来ます。

松浦音訳の会ではデジタル化された機器は導入されていませんが、将来的には導入の検討が必要です。

また、中には佐世保音訳の会にも所属している会員がいます。佐世保音訳の会では、定期的に元NHKアナウンサーなどの講師を招いて、研修会を開催しています。そこに参加した会員がノウハウを松浦音訳の会に生かしながら、技術の向上に努め、より聞きやすい「声の市報」を作成していきます。

多くの人に利用してほしい

「松浦音訳の会」世話人

堤 智子^{ともこ}さん

(志佐・里1、74)



市報の文面を音訳するとき、棒グラフや図で表されたものを音訳するときに一番苦労します。どう読んだら聞く人に理解してもらえるかと考え、工夫しながら読んでいきます。

目が不自由な人だけでなく、小さい字が見づらい人など、市内の色々な情報を知る手段としてもっと多くの人に利用してほしいです。いろいろな苦労がありますが、毎月市報まつうらの音訳テープを楽しみに待っていてくださる利用者がおられるので、やりがいがあり、できる限りこの活動を続けていきたいですね。

音訳ボランティア募集

「松浦音訳の会」では、一緒に市報まつうらの音訳活動にご協力いただける人を募集しています。

経験は問いません。興味のある人は、まずご連絡ください。

○問合せ先

社会福祉協議会

☎ 0956 - 72 - 0788